

2014年
(平成26年)

2013年
(平成25年)

11月 「森のおもちゃフェスティバル」&「ママによるママのためのママまつり in くにみ」を初開催

11月 「東京くにみ会」を東京で初開催

10月 「くにみ産業祭」を初開催

9月 第18回義経まつりで義経公行列が復活

8月 国見町応援大使三屋裕子さんを団長に「女性100人応援団ツアー in くにみ」を初開催。国見町の魅力を「口コミ」で発信

7月 町復興有限責任事業組合を設立

6月 住宅除染を開始。町内5方部の仮置場を町民会議で決定

12月 あんぼ柿が3年ぶりに一部出荷を開始

11月 「明日へ。復興・きずないルミネーション」を初開催

10月 震災後はじめて全町民を対象とした「総合防災訓練」を実施

9月 東北浄化センター保管汚泥全量搬出に向けた仮設汚泥乾燥施設に関する覚書を締結

8月 「国見ルネサンス（ふるさと祭）」を初開催

8月 「キッズ防災教室」を開催

7月 あんぼ柿の全面加工が再開

6月 新嘗祭で町産「天のつぶ」を献穀

5月 幼小中一貫教育事業「くにみっ子まつり」を初開催。テーマは「きらきら笑顔！はばたけ翼！明るい未来へ！」

4月 小坂アグリ株式会社による子どもたちの稲刈り体験を初開催

3月 「奥州街道ど真ん中！春のフードフェスタ」を藤田商店街で初開催

3月 「国見ルネサンス（ふるさと祭）」を初開催

2月 いざという時に備えて全町民を対象に総合防災訓練



森のおもちゃフェスティバル



子どもたちの稲刈り体験



ふるさとを思う気持ちを大切に「国見ルネサンス」



いざという時に備えて全町民を対象に総合防災訓練



女性100人応援団ツアー in くにみ



平泉ジュニア文化歴訪団と国見町の夏休みジュニア歴史探検隊の交流がスタート



第18回義経まつりで義経公行列が復活。町民の心の元気を取り戻し、心ひとつに「復興」へ



町の現状を知ってもらうために「東京くにみ会」を開催



町の農・商・工が集結「くにみ産業祭」



幼小中一貫教育事業「くにみっ子まつり」



念願のあんぼ柿の全面加工が再開



くにみもたん広場オープン



明るい希望を灯したイルミネーション



ベーカリーサクマ
佐久間 浩之さん

当たり前のことを当たり前、やさしいパンをつくり続ける

私の仕事場は道具や機械が多く、あの時激しい揺れに積んであるものがガタガタと床に落ち、火の付いたフライヤーから油がこぼれていました。不自然な静寂の中で、人の声と車のエンジン音だけが聞こえ、停電に気づきました。

数日して、町から学校給食用の炊飯器で避難所のご飯を炊いてほしいとの話があり、給水車が水を運んでくれたのでご飯の炊き出しをはじめました。1回に300人分の米をほんの少しの水で大切に洗い、炊いて運んで回収して容器を洗い、1日3回朝昼夕と毎日朝4時から夜12時までかかりました。1週間ほどすると少しずつ炊き出しの数も減っていき、3月末ころには終わりました。

水が復旧してから店でパンの販売も再開しましたが、在庫の材料でしか作れず、お客様が行列で待っているのに毎日すぐに売り切れてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。スーパーのパンが1日ごとに1.5倍の値段になっている話も聞きました。

あの春は桜の花を一度も見ないで散ってしまっていたことにあとで気づきました。

この国見町で25年間給食のパンを作り、36年間店でパンを焼いていますが、これからも自分のパンに合う材料を集め、当たり前のことを当たり前にして、やさしいパンができるように、パン屋の仕事を続けていきたいです。

私のパン屋に来ていただけるお客様にいつも感謝、感謝です。ありがとうございます。